

八、あひる

(1) 太いきびがらを長さ六センチ位に切り、更に一端から二センチ位の所に、直径の約半分位まで、斜の切込をつけ、その部分を縦に割つてとるこれは胴になるのである。

(2) 同じ太さのきびがらを、長さ二センチ位に切り、一端から半センチ位の所に直径の三分の二弱の所までの切込をつけ、その部分を又小口から斜に切り取り、更に側方からも料に少しく切りと

きびがら細工(其五)

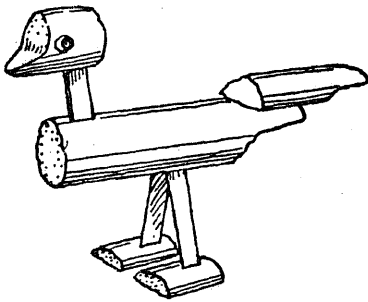
東京女高師訓導

山形

寛

六、彫刻的意味を加味した教材(續き)

第十九圖



あひる

り、然る後指で壓して第十九圖に示す如き頭部の形を作る。

(3) 同じ太さの、或は少し細いきびがらを、長さ二センチ半位に切り、之を縦に二つ割にし、更に一端を少しく削るか指で壓すかして、尾の形を作る。

(4) やゝ幅の廣い皮で、頭と胴とを圖の如く結合し、更に二本の肢をつけ、尾をつけて、大體の形を作る。

(5) 細いきびがらを長さ約一センチに切り、之を二つ割にしたものを脚の先端につけて、立つ様にする。

(6) 眼を畫き込み、全體の姿勢や歪を修正して仕上げる。

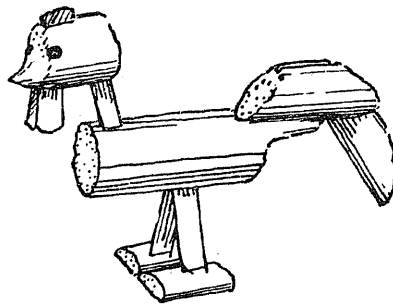
九、雞

(1) 太いきびがらを長さ六センチ位に切つたもので、胴を作る。その工作法は「あひる」の胴の

工作に準ずればよい。

(2) 太いきびがらを長さ約センチに切り、更に一端から半センチ位の所に斜の切込をつけて、割りととり、指頭で押して頭の形の大體を作つてか

第廿圖



に ば と り

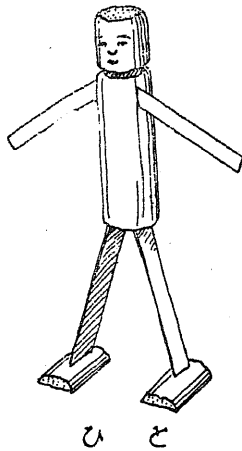
ら、第二十圖に示すが如く、皮で作つたとさかをさして、頭を作る。

(3) やゝ細いきびがらで、尾を作るために、圖に示すが如き兩端を斜に切つた材料二個を作る。

(4) やゝ太く割つた皮で頭と胴とを結合し、更にあまり太くない皮で尾を結合する。而して尾を結合する場合には、豫め結合する位置に當てゝ見て、接合部の形を、しつくり合ふ様に、或は削り取るなり、或は壓し窪めるなりして修正してから結合するがよい。

(5) 「あひる」の工作法に準じて肢をつけ、眼を畫き入れ、全體の形を修正して仕上げぬ。

第廿一圖



一〇、人(其一)

(1) 太いきびがらを長さ約センチ五と二センチとに切る。前者は人の胴、後者は頭になるのである。

る。

(2) 前記二本のきびがらの兩端の稜を指頭で壓して丸くし、然る後これを第二十一圖の如く結合する。

(3) やゝ幅廣く剥がした皮を、長さ約七センチに切つたもの四本を作り、之を前工程で作つた胴に刺して、第二十一圖に示す如く手と足とを作る。この時手と胴との角度と二本の足の開き工合に依つて、作り上げたもの、持つ氣分の上に大なる差があるから、その邊は工夫せしめる要がある。然し何度も刺しなほしては接合部がゆるくなつてしまふから接合する前に考へて成るべく一度刺したらやり返さぬ様にせしめるがよい。又足の開き工合は出來上つたものの安定にも關係することを注意するがよい。

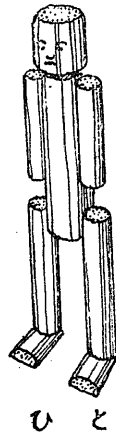
(4) 手と足の先端を適度に切りつめて形を整へる。

- (5) 細いきびがらを、長さ約二センチに切り、之を縦に二つ割にしたものを足の先端につける。これは丸いまゝのものを二本作つて用ひてもよい。
- (6) 顔を書き込んで仕上げる。

一一、八(其二)

- (1) 前課人(其一)の工作法に準じて、太いきびがらで胴と頭を作る。

第廿二圖



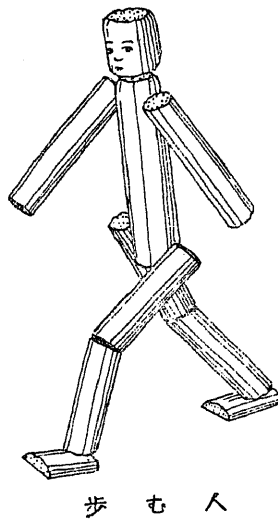
- (2) 最も細いきびがらを、長さ約三センチに切つたもの二本と、長さ五センチ弱に切つたもの二本とを作る。前者は手、後者は足になる材料である。

- (3) 胴と頭とを結合し、更にこれに第二十二圖に示す如く手と足とを結合する。この時手は圖の

如くしないで胴に直角につけたり、又前課の如き角度につけたりしてもよい。

- (4) 細いきびがらを、長さ約二センチに切つたものを縦に二つ割にしたものを足の先端につける。
- (5) 顔を書き込み、全體の形を修正して仕上げる。

第廿三圖



一一、歩む人

- (1) 前課及び前々課の工作に準じて、人の頭と胴と手の材料を作る。

- (2) 手と同じ位の細さのきびがらを長さ約六セ

ンチに切つたもの二本を作り、更に之を中央から少しく斜に切つて二分する。これは足になるものである。

(3) 頭と胴とを結合し、更に胴に二本の手を圖に示す如く結合する。

(4) 前課の工作に準じて足の先端につける材料を作り、圖に示すが如く足を曲げた形に各の足を作る。この時左の足と右の足とは、足先をつける角度を變へなければならぬ。

(5) 第三工程で作つたものに、第四工程で作つたものを結合し、第二十三圖に示す如き形となる

(6) 顔を畫き、且つ立てて見て、平均を保つてよく立つ様に各部の形を修正して仕上げぬ。

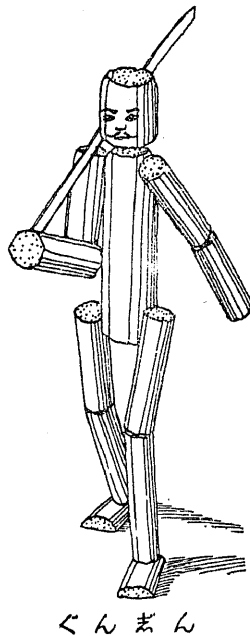
本工作に於て胴と手、胴と足の結合にはやゝ太い籤を用ふるがよい。この接合にきびがらの皮を用ふる時は、結合後全體の姿勢を整へる上に不便である。

本工作に於ける人の姿勢は必ずしも圖に示すが如くしないで、兒童の任意な姿勢に作らしめるもよい。

一三、軍人

(1) 前課「歩む人」の工作に準じて、頭、胴、足の各部を作り、前課とほぼ同じ姿勢に之を結合する。

第廿四圖



(2) 手は細いきびがらを長さ約五センチに切り之を中央から二等分したものを、第二十四圖に示す如く結合してから、更に之を胴に結合する。

(3) きびがらの皮を、圖に示すが如く右手に結合して銃をかついでゐる形を作る。

(4) 顔を畫き込み、全體の姿勢をなほして安定に立つやうにして仕上げる。

本課の工作に於ては、頭を作つたのよりも更に太いきびがらを短く切つたもので、帽子を作つてかぶせると一層面白くなる。

人其一、人其二、歩む人、軍人の四課は、順に少しづつ形を變へ程度を高めて行つたのであるがこれ等を少しづつ變化させて行けば、種々の程度に於て、種々の姿勢の人を作ることが出来る。故に教授の際は種々工夫させて見るがよい。

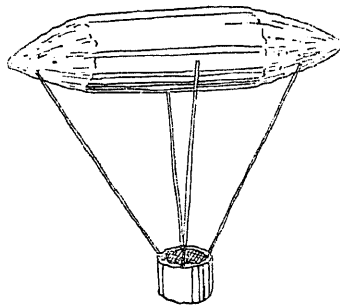
一四、飛行船

(1) 最も太いきびがらを、長さ六センチ位に切り、その兩端をよく切れるナイフで削つて、第二十五圖に示す如き飛行機の氣囊部を作る。この兩端のとがつた部分の工作は、單にナイフで削つた

だけで仕上げてよいが、又大體を削つてから、仕上げは指頭で壓して形を整へてもよい。

(2) 中位の太さのきびがらを、長さ一センチ弱に切り、一方の切口の中央を少し抉りつつて乗る所の部分を作る。

第廿五圖



飛行船

(3) 細い籤が細く割つたきびがらの皮かで、第二十五圖に示す如く氣囊部と乗る所の部分とを結合して仕上げる、この結合に用ひる籤又は皮の數

は必ずしも圖の如くしないで、もつと多くしてもよい。但し結合に用ふる籤又は皮は氣囊の胴の中央に串刺にしては拙いからなるべく端に刺す様にするがよい、

本工作は甚だ簡單ではあるが、刃物が切れないと綺麗には仕上がらない。

一五、ボート

- (1) 太いきびがらを、長さ約八センチに切り、

第廿六圖



ボート

然る後にボートの先端の左右から斜面に削つて、舳の部分を作る。

- (2) 第二十六圖に示す如く中央の座席其他のある部分を、よく切れるナイフの先端で抉りとる。この時一氣にあまり多くの部分を削りとらうとすると、かへつて切り過ぎたり、他の部分を損じたりすることがあるから注意を要する。

以上が出来たならば皮で座席を作つたり、舵をつけたりさせると一層面白い。

本工作は甚だ簡單ではあるが手際よく作るには相當の練習を積んでからでないとい困難である。

一六、汽軍

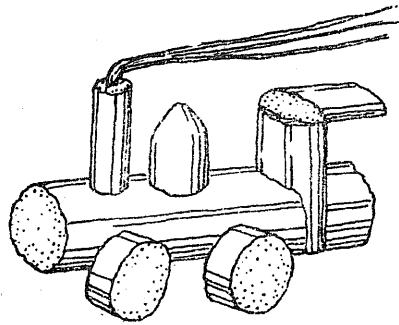
- (1) 直徑約一、五センチのきびがらを、長さ約四、〇センチに切る。これは汽罐部になるものである。

- (2) 同じ太さのきびがらを、長さ三センチ強に切り、更に直徑の約三分の一位を縦に切り去り、

且つ汽罐部に取りつけよくするため、反對の側の下端約一、五センチを削りとる。これは種々の機械のとりつけてある部分になるのである。但しきびがらは機械の模作までは出来ないが)

(3) 同じ太さの材料を、長さ約一五センチに切

第廿七圖



き ま や

り、且つ之を縦に二つに切る。これは機械部の屋根になる材料である。

(4) 更に同じ太さの材料を、長さ約一センチ弱

に切る。これは機械部の床に當る部分になる材料である。

(5) 同じ太さの材料を、長さ約半センチに切つたものを四個作る。これは車輪になる材料である而してこの材料の切斷はよく切れるナイフでするがよい。切れない刃物や、鉄などで切つたのでは小口が平に且つ滑に切れなくて拙い。

(6) 直径一センチ弱のきびがらを、長さ約二センチに切る。これは煙突になるものである。若し細いきびがらのなかつた時には、やゝ太いもので作つてから、押し縮めて細くするがよい。

(7) 直径一センチ強のきびがらを、長さ二センチ弱に切り一方の端の角を少しく小刀で削りとり更に指頭で壓して丸味をつける。これは蒸氣のたまる部分になるのである。

(8) 以上の諸材料が出来たならば、之を第二十七圖の如く結合する。然し結合は茲に説明した様

に全部の部分的材料が出来てから一時に結合する
 もよく、又出来た部分から順に結合して行くもよ
 い。但し後者の結合法に従ふ時にも、車輪の結合
 は最後にし、且つ四つが歪なく揃つてつく様にし
 なければならぬ。この結合が悪いと、出来上つ
 てからがた／＼して据りの悪いものとなる。
 (9) 全體の歪を修正し、細く割つた皮を圖に示
 すが如く煙突に刺して煙を表はして仕上げる。

御 挨拶

餘白を利用して一寸御挨拶申上げます。私は過日文部省在外研究員として物理化學
 及教育研究の爲め滿一箇年間英吉利國に在留することを命ぜられましたので、不日横
 濱解纜の北野丸で渡歐の途に上ります。上海・香港を振出しに見て六月中旬英國に到
 着、それより和・白・獨・佛・瑞・伊等を視察のため旅行し、本年末アメリカに渡る豫定、
 そして明年三月末に歸國する筈であります。その間實驗室に入つて研究することな
 く視察を主とし専門の物理化學方面の事項は勿論、幼稚園教育の有様を成るべくよく
 研究したいといふ希望であります。しかし希望だけに終るかも知れませんが、何卒我
 が國幼稚園教育の益々發展いたしますべし、皆さんと共に努力したいと存じます。在
 外中は兎角疎遠勝となるかも知れませんが、皆様の益々健康にて邦家教育のため御盡
 粹相成ることを切望いたします。

大正十五年三月十日

堀 七 藏